

1 学 年 第1学年・第2学年

2 単 元 発表活動（主に国語科）

3 実践内容

本校は全校30人未満で、各学年の人数が5人程度という小規模校である。人数の少なさから、各教科の発表活動は、いつも決まった、特定の相手に対してだけ行うものになってしまいがちであり、意欲面や、話し方や見せ方といった面で課題が見られる。この課題を解決する手段として、ランチルーム給食の場を活用している。

本校では、昨年度より空き教室だった部屋をランチルームとし、全校児童が一堂に会して給食を食べるようになった。それに伴い、昼の校内放送は放送機器を使わず、全員の前に出て献立やお知らせを伝える形式になっている。給食を食べながらではあるが、多くの人が聞いてくれる時間と場所であることから、学習の成果を発表する場として、主に国語科で学んだことを発表してきた。1年生は、くちばしクイズを披露したり、発見・観察したものを発表したりした。2年生は、詩の朗読をしたり、自分が考えた夢の道具を、イラストを見せながら発表したりした。上級生に向けて発表することは、同級生の前での発表以上に緊張するようで、授業の時間だけでなく、休み時間も使いながら一生懸命練習に励む様子が見られた。クイズに対してたくさんの反応をもらえることや、終わった後に温かな拍手がもらえることも、子供たちの意欲の向上につながった。



今年度は、新型コロナウイルスへの感染対策のため、ランチルームでの全校給食ができなくなってしまった。しかし、先日導入された G Suite の meet 機能を用いて教室をオンラインでつなぎ、昼の放送活動を行っている。画面を通して行う形になりやり方は変わったが、今年度も学んだことを発表する活動は継続して行っている。先日は2年生が、スイミーの作者、レオ＝レオニが描いた作品の中から、お気に入りの一冊を紹介した。画面を通しての発表は、聞き手を目の前にしたときとは勝手が違い、視線の向け方や本の持ち方など、練習から戸惑う場面が多かったが、画面に映った自分の姿を見て、どう発表するか試行錯誤しながら頑張る子供たちからは、聞き手のことを考え、分かりやすく伝えようとする意識が感じられた。



4 成果と課題

相手意識を持ちながら話すことは少しずつできるようになってきたが、声を張ったり、はきはきと話したりすることには変わらず課題が見られる。オンラインでの発表で意欲を喚起しつつ、聞き手を意識した声の出し方を指導していきたい。